

5 その他

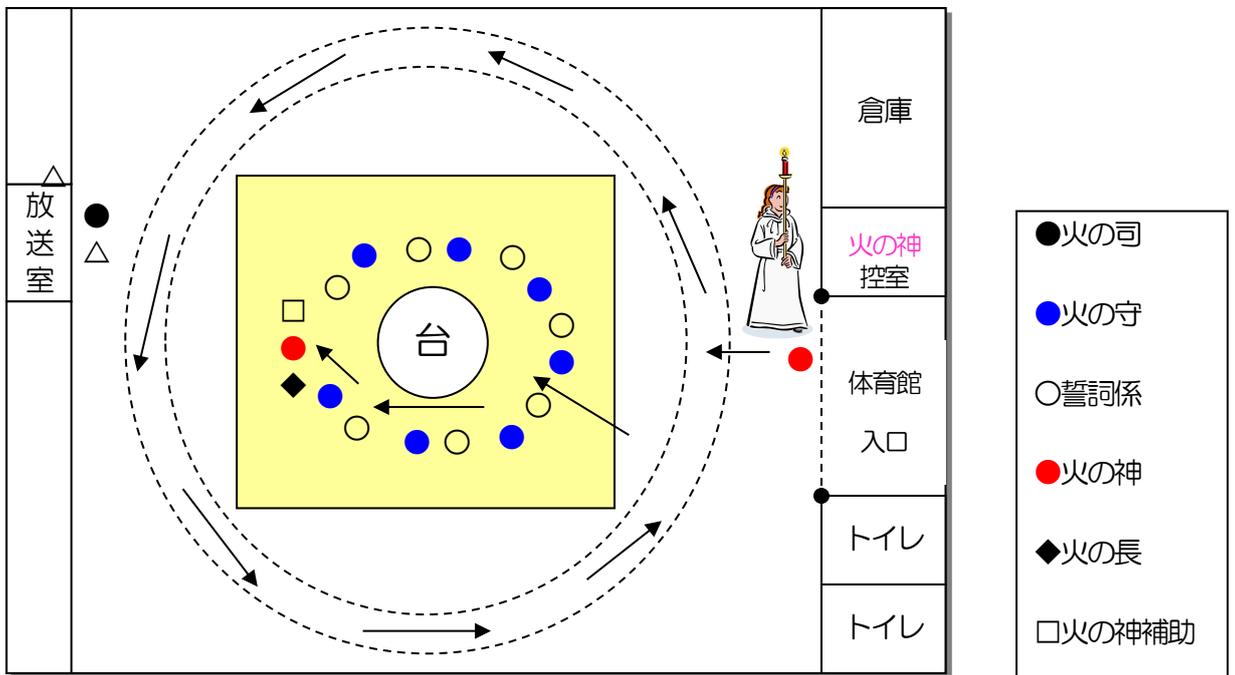
(1) 係の役割分担

係名(人数)	第1部	第3部	備考
火の神(1~2)	入場・分火	静火・退場	
火の長(1)	はじめの言葉	まとめの言葉	指導者からの選出が、一般的です。
火の司(1)	ナレーター		
火の守(5~10)※	受火・献火		火の守と誓詞係は同じ人数が一般的です。 例) 班から1名ずつなど
誓詞係(5~10)※	誓いの言葉		
献詩係(1)		詩の朗読	
音響係・照明係(各1)	BGMの調整・せりふにライトを当てる		
火の神補助(1)	火の神登壇時の補助		火の神が2人の場合は不要

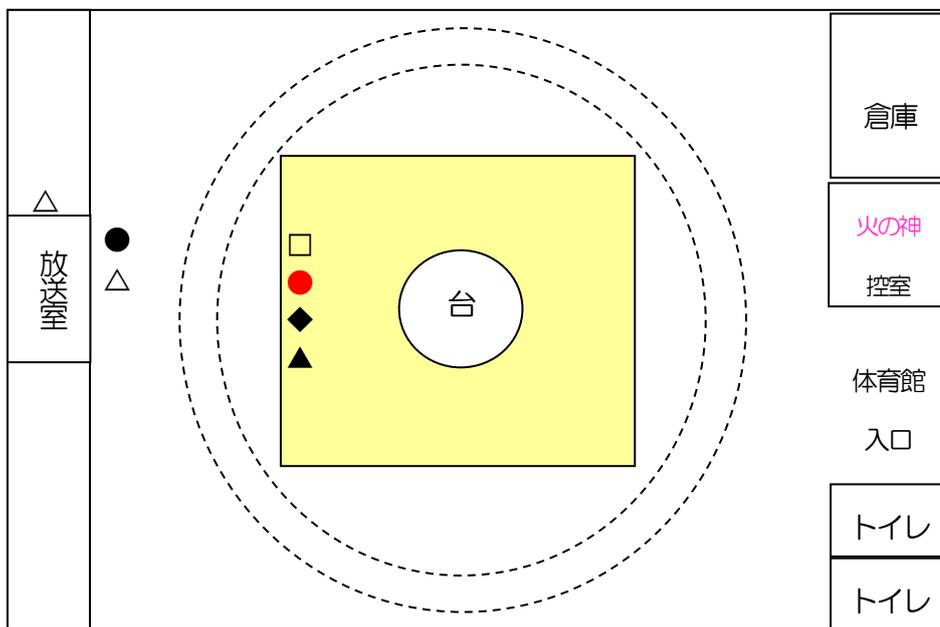
※ 学校の実態に応じて、火の守と誓詞係の人数は調整してください。

(2) 会場イメージ

【第1部】



【第3部】



【展開例】

(1) 第1部 迎え火のつどい ※静かな雰囲気の中で行う

全体の流れ	役割分担	せりふ (例)
①ナレーション	火の司	<p>「ここ、阿蘇の地には、火山や草原、水源など雄大な自然が広がり、その自然は私たち人間にたくさんの恵みを与えています。</p> <p>大昔から、阿蘇に住む人たちは、阿蘇の山々を『神様の住む山』、火山から生まれる火を『御神火』として大切にしてきました。この豊かで美しい自然と生きている大地に囲まれた、ここ、阿蘇青少年交流の家も、また一日が終わろうとしています。</p> <p>自らの向上を願い、お互いの友情を深めようとして集まった(団体・学校名等)のみなさん、これよりキャンドルの集いを始めます。</p> <p>まもなく、『御神火』をたずさえた火の神の登場です。みんなで静かに迎えましょう。」</p>
②火の神の登場	火の神	○火の神がキャンドルをもって、入口から登場する。
③はじめの言葉	火の司 火の長	<p>「ここで、火の長よりお言葉をいただきます。」</p> <p>「今、ここに皆さんの友情と団結のために御神火を迎えます。私たちは、この研修に参加することにより仲間としてのきずなをさらに深めることができました。</p> <p>ともすれば、自己の生活を見失いがちな私たちは、この研修によって、自ら考え自ら行うことの意義を身をもって体得しました。規則正しい生活、自主的な生活体験は自己をあらためて見直させてくれるとともに、多くの若き仲間のたくましさや、すばらしい行動を教えてくださいました。</p> <p>この聖なる御神火を囲んでのつどいが、一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく、楽しい思い出となるよう祈りつつこの集いを開きます。」</p>
④分火 火の神から火の守へキャンドルの火を分火する。 ↓ 全ての火の守に分火を終えたら、火の神は手に持ったキャンドルをキャンドル台の最上部に置く。	火の守 火の神 火の守① 以下 火の神 火の守② ～⑨	<p>「それでは、火の神より火の守へ『御神火』を分火いたします。」</p> <p>①あなたには、すばらしい「出会いの火」をあげましょう。 ①私は、すばらしい「出会いの火」をいただきました。</p> <p>②あなたには、あなたと私の「友情の火」をあげましょう。 ～火の守①同様、火の守②～⑨は火の神の言葉を繰り返す～</p> <p>③あなたには、「仲間づくりの火」をあげましょう。 ④あなたには、みんなへの「感謝の火」をあげましょう。 ⑤あなたには、生きていく「英知と力の火」をあげましょう。 ⑥あなたには、「愛と奉仕の火」をあげましょう。 ⑦あなたには、困難を克服する「勇気の火」をあげましょう。 ⑧あなたには、「調和と創造の火」をあげましょう。 ⑨あなたには、「努力と向上の火」をあげましょう。</p>
⑤誓いの言葉	火の司 誓詞係① ～⑨	<p>「ここで、誓詞係のみなさんから誓いの言葉をお願いします。」</p> <p>「私たちは、この研修を通じて〇〇〇〇することを誓います。」 団体名、組(科) 氏名 〇〇 〇〇</p> <p>誓詞係①～⑨が、一人ずつ誓いの言葉を言う。</p>

「〇〇の火」はみなさんの大切にしている言葉などに変更してもかまいません。
火の守の数は、団体で決めてください。

誓詞係の数は、団体で決めてください。

<p>⑥献火</p> <p>火の司のナレーターに合わせて、火の守がキャンドルに順番に火をつけていく。</p> <p>↓</p> <p>最後の火の守がキャンドルを置き終わったら、火の守全員でキャンドル台の残りのキャンドルに火をつけていく。</p>	<p>火の司</p> <p>火の守① ～⑨</p>	<p>「それでは、火の守によるキャンドル台への献火をおこないます。」</p> <p>「最初のキャンドルに明かりが灯されます。今宵が素晴らしい出会いの時にありますように。」</p> <p>「2番目のキャンドルに明かりが灯されます。みなさんの友情を温め合う時にありますように。」</p> <p>「3番目のキャンドルに明かりが灯されます。友だちの輪が大きく広がりますように。」</p> <p>「4番目のキャンドルに明かりが灯されます。家族に、友に、そしてまわりの人たちへの感謝の気持ちが深まりますように。」</p> <p>「5番目のキャンドルに明かりが灯されます。真心をもって人や物事に対処することができますように。」</p> <p>「6番目のキャンドルに明かりが灯されます。限りない愛と奉仕の心がめばえますように。」</p> <p>「7番目のキャンドルに明かりが灯されます。困難を克服する勇気がわきますように。」</p> <p>「8番目のキャンドルに明かりが灯されます。明日を切り開くために考え抜く力が身につきますように。」</p> <p>「9番目のキャンドルに明かりが灯されます。目標をもってひたむきに頑張っていけますように。」</p> <p>(最後のキャンドルに明かりが灯されたのを確認したら)</p> <p>「最後のキャンドルに明かりが灯されました。今日の想いがみなさんの胸に輝く炎としていつまでも燃え続けますように。」</p>
<p>⑦退場</p>	<p>火の司</p>	<p>「ここで、火の長、火の神、火の守、誓詞係が退場します。」</p> <p>(火の長、火の神、火の守、誓詞係全員退場したのを確認したら)</p> <p>「みなさんの協力により、中央のキャンドル台に「御神火」を迎えることができました。これから、この火を囲んでの楽しい交歓のつどいに入っていきます。」</p>

「緑文字」の部分は、「④分火」の火と関連付けます。(④を変更された団体は、こども変更してください。)

(2) 第2部 交歓のつどい (レクリエーション・出し物) ※明るく楽しい雰囲気で行う

各クラス、チームの出し物やレクリエーションなど行う。

- ※ 指導依頼をされる場合は、交流の家職員がレクリエーションを行います。
- ※ 活動中は、シートの上には乗らないように注意しましょう。
- ※ 第2部終了後、係の人は第3部の準備・配置、他の人は第1部の隊形に並ぶ。

(3) 第3部 送り火のつどい ※静かな雰囲気の中で行う

全体の流れ	役割分担	せりふ (例)
<p>① 献詩</p>	<p>火の司 献詩係</p>	<p>「まず、はじめに献詩係より献詩をお願いします。」</p> <p>(例) 「あたりまえのことを あたりまえにすることができ あたりまえのことに 感謝できる人になりたい あたりまえのことを あたりまえにやることが おそろかになってはいないだろうか あたりまえのことに 感謝できなくて 狂った刺激のみ 追ってはいないだろうか 人間は人間らしくあるという あたりまえのことを 大切にしたい私たちは この研修を通じて〇〇〇〇することを誓います。」</p> <p>団体名、組 (科) 氏名 〇〇 〇〇</p>
<p>② 静火</p>	<p>火の司 火の神</p>	<p>「続いて火の神がキャンドル台の静火をおこないます。」</p> <p>火の神が、キャンドル台の火を下から順番に1つずつ消していく。</p>
<p>③ まとめ の言葉</p>	<p>火の司 火の長</p>	<p>「ここで、火の長より言葉をお願いします。」</p> <p>(研修のまとめになるようなお話をする。)</p>
<p>④ 退場</p>	<p>火の司</p>	<p>「火の長と火の神と献詩係が退場します。みなさん静かに送りましょう。」</p> <p>(火の長、火の神、献詩係退場)</p>

献詩の内容は、団体の決めてください。

